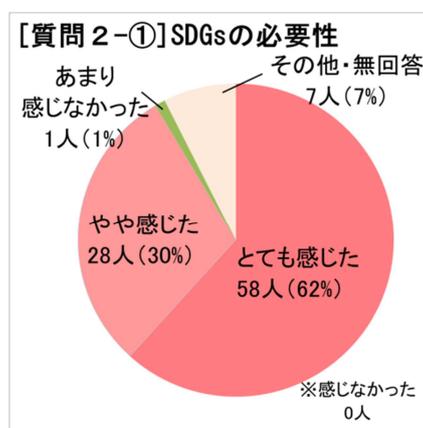
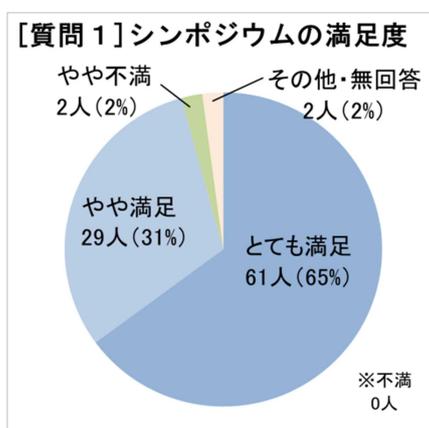


「サステナブル滋賀 × SDGs」シンポジウムアンケート結果

- 日 時 平成 29 年 6 月 1 日 (木) 13:00～
- 場 所 ピアザ淡海 (ピアザホール)
- 回 収 数 94 枚 (回収率 24% : 来場者数 390 人)
- 質問項目 アンケート参照 (4 ページ目)

1 概要

- ・シンポジウムの内容に対する満足度がかなり高い (「満足」「やや満足」合計…約 96%)。
- ・満足度が高い理由として、SDGs に関する知識が深まったこと、登壇者から様々な立場の具体的な意見を聞き SDGs を身近に感じたことといった内容が多い。
- ・SDGs に取り組む必要性への理解が進んだ (「とても感じた」「やや感じた」合計…約 92%)。
- ・取り組みを進めるアイデアには自分自身・家庭・職場での確認・話し合い等の日常生活での実践、シンポジウム等の開催や学校での教育や分かりやすい言葉への置換え等の啓発に関するものが多い。
- ・印象に残った内容は、滋賀県が都道府県で初めて取り組みを始めたこと、「誰一人取り残さない」「四方よし」「我が事」「エゴからエコ」等のキーワードが多い。
- ・シンポジウムに対する意見は、聴衆から質問したい、宣言で終わらず具体的な行動提起が欲しい、滋賀に根差した社会課題を取り上げて欲しい、世界各国の取り組み事例を紹介して欲しい、など。



2 各質問項目の主な意見

(1) 【質問 1】シンポジウムの満足度の理由

- ・SDGs の事が分かった。何をすれば良いか理解し始めた。自分にできる事を考えたい。
- ・SDGs がなぜ必要かという思いのようなものが感じられた。
- ・SDGs という言葉、概念を身近に感じた。
- ・自分の考え方に新しい風が吹いた。
- ・生の国連担当事務次官の講演を聞いた。
- ・パネルディスカッションもあって分かりやすかった。登壇者が具体的事例を話され良

かった。

- ・2030年は自分達が望んで作り上げた未来であって欲しい。活力や熱意を得た
- ・地方自治体の中で先駆けてこのようなシンポジウムを開いたことは大変意義深い。
- ・概念的な内容で具体性に欠ける部分は分かりづらかった。
- ・シンポジウムが良かっただけに会場が狭くて残念。周囲に満員で参加できない人がいた。

(2) [質問2-②]取組を進めるためのアイデア

- ・身近な所から始める。気付かぬうちに自然にやっていることがあるかもしれない。
- ・まず自分にできるのは子供への教育。特に食品ロスについて実生活で取り組みたい。
- ・無駄な物は買わない。安いから買うはダメ。必要な物を高くても買う事が大切。
- ・自身の業務に17項目を当てはめ、仕事の価値の物差しを統一する。
- ・教育への取り入れ、学校への出前講座を行い、子供と一緒に行動を考える。
- ・カタカナ語では国民に広がらないので誰もが分かりやすい言葉に置き換え、将来の姿の見える化を子ども達から図っていただきたい。
- ・教育課程の中に入っていくことが提案された。先生方の研修でも紹介して欲しい。
- ・行政、学校、企業、一般市民を巻き込み、シンポジウムや座談会を県内各地で開催。
- ・トップレベルでの理解度を上げることも大切。
- ・就活のセミナーでSDGsやCSRに力を入れている企業紹介やランキング発表をしてももらえれば、SDGsに関心をもつ学生、企業が増えると思う。
- ・県内でSDGsにかかわる団体のリスト化・見える化、SDGsコンテストの開催。
- ・「我が事」として日常何をするかを書き込める滋賀県版17の課題ステッカーを学校や企業で配布。
- ・大学内の学生が自分の専門性、特技を活かして17個のSDGsのうち1つを選んで取り組む。学内の学生はそれぞれのミッションごとに連携し合い達成する。
- ・食品ロス⇒物流によるCO2。IOT×ビッグデータでサプライチェーンを改善して欲しい。滋賀大（データサイエンス学部）×企業で取り組んで欲しい。

(3) [質問3]特に印象に残った内容やキーワード

- ・(上記以外のキーワードとして)「エシカル」「縁起」「自分中心から地球中心へ」「新たな生き方、暮らし方のモデル」「どう稼ぐのか」「自分の消費行動から始まる」「食品ロス」「連環性」「気付きと動きから世界を変える」「アジアのモデルとなる」「DON'T BOY THIS JACKET」「教育＝本質を伝えること」「SDGs＝これからの生き方」「ひとつでも良いので、自分としての取り組みをしましょう」「SDGsは我々にとってのツールである」「全てがつながっている。一直線のを円(サークル)にしていく」「人間中心の資本主義への変討」「灯台は晴れた日のために建てるのではない」。
- ・滋賀が日本で初めてキックオフした。国内で最初の府県が当県と聞いて驚く。
- ・ガス氏の「SDGsを実現するためには厳しいことも乗り越えなければならない」。
- ・たねやさんの取組が印象的。自分ができることから行動に移す。若い人に聞いて欲しかった。

- ・SDGs は一つ一つ埋めながら完成させるパズルのピース。一人でも多くの参加が大切と思った。
- ・SDGs≡三方よし ではないかと感じた。

(4) [質問4]その他(感想・意見)

- ・一民間企業と行政組織は違う。いかに行政内で本気で取り組むかを期待している。
- ・SDGs を推進しないと地球がもたず人類が滅亡する。私達が変わらなくてはいけない。
- ・17 の目標(課題)は全て人間のエゴが作り出したことを理解して、日々の生活を考えることが必要
- ・競争至上主義の克服が最大の課題。
- ・世界の労働者が豊かに暮らせる労働者の賃金は商品の最低価格補償が必要と考えた。
- ・月並みだが幸福って何だろうと改めて考えた。また、特に幼小中時の教育のあり方を見直していかないと、SDGs を自然に捉え取り組む人は育たないと思う。
- ・文系と理系をつなげる SD 学部という話があったが、企業の中でも製造と営業、マーケティング、デザイナーをつなげる SD 部門があれば良いと思う。
- ・県単位で近隣県にも展開して欲しい。
- ・ネット、SNS で質問を投稿できるようにして欲しい。
- ・「話を聞く」ばかりになっていたので、アンケート以外に何かアウトプットさせることで「我が事」に近付けさせることが含まれていたら良いと思う
- ・まずは SDGs を知ることが大事。そこから自分に何ができるかを考える。この場で気付いて良かった。甲賀の子育て応援団体として SDGs を広げていきたい。
- ・地球と人間の関係を考えること、人間は地球で生かされていること、謙虚に生きる大切さ、人は人とのつながりの中で生きていることを強く意識して SDGs を考え行動することが大切であると考えさせられた。
- ・社会の貧困、人間の貧困は他ならない人間の欲望が生み出すこと、善悪併せもつ人間の本質を正視し、可能な限り善に近づく生活に心がけることが重要であることを強く意識して今後の人生を送りたい。
- ・聴こえにくいので一般の人を対象とした講演会に行くことがないが、情報保障がしっかり付いていたので理解が深まり、来て良かった。
- ・パネルディスカッションの1部は抽象的だったが、2部は身近かで楽しく聞けた。末吉さんのコーディネートは楽しくお上手と思った。
- ・国谷さんのコーディネートは分かりやすく理解できた。滋賀に思いを寄せる人が沢山いる事に喜びを感じた。ガス氏の話は説得力があった。
- ・とてもよい催しで、内容も構成もプロフェッショナル性を感じた。
- ・今後 SDGs に関する催しがあれば、今回 WEB での申込者にはメールで教えて欲しい。
- ・宣言だけに終わらず具体的な行動提起を!!

サステナブル滋賀 × SDGs シンポジウム アンケート

本日は、御来場いただき誠にありがとうございました。

今後、SDGs に取り組んでいく参考とさせていただくため、アンケートに御協力をお願いします。

質問 1 : シンポジウムの内容はいかがでしたか？
また、その理由もお聞かせください。

満足

やや満足

やや不満

不満

理由 : _____

質問 2-① : シンポジウムをキックオフとして、仕事や暮らしの中で SDGs に取り組む必要性を感じましたか？

とても感じた

やや感じた

あまり感じなかった

感じなかった

質問 2-② : 取組を進めるためのアイデアがあれば、お聞かせください。

質問 3 : シンポジウムの中で、特に印象に残った内容やキーワードをお聞かせください。

質問 4 : その他に何か御感想や御意見があればお聞かせください。

御回答ありがとうございました。